

済生会和歌山病院 脳神経外科 後期臨床研修内容

当科は、脳血管障害をはじめ頭部外傷、脳腫瘍などの脳神経疾患・外傷の診療を行っている。年間入院患者数 360 人の大半は脳梗塞などの脳血管障害であり、超急性期脳梗塞の血栓溶解から、慢性期におけるそれらの再発予防を中心に行っている。24 時間、神経救急対応を行っているが、これは医師以外のスタッフや関連する診療科との院内連携の上に成り立っている。少数精鋭ではあるがスムーズな院内連携のなかで、『一例に学ぶ』を基本姿勢に日々研修に精励し、神経を病んだ患者さんが治療を通じて回復していく喜びを経験していただきたい。

【指導者】

部長（副院長）	仲 寛	脳神経外科専門医・指導医
医長	山家弘雄	脳神経外科専門医 脳神経血管内治療専門医
医長	三木潤一郎	脳神経外科専門医 脊髄外科治療認定医
医師	林 宣秀	脳神経外科専門医

【研修目標】

- ① 神経学、神経放射線診断を学ぶ
神経症候学と神経放射線学を習得し、疾患の適切な診断がおこなえることを目標とする。特に、神経疾患においては患者だけでなく周囲の人たちから適切に情報を集め、臨床経過を把握することが重要である。
- ② 基本的な検査・手術手技を学ぶ
脳血管撮影や脊髄・脳槽造影などの検査手技を習得し、穿頭術、開頭術などの基本操作と術後管理における適切な処置がおこなえることを目標とする。
- ③ 救急疾患診療を学ぶ
救急患者の1次処置に始まり、脳神経救急の緊急検査、手術に至る治療の流れを迅速かつ適切に計画し、実行できることを目標とする。

【行動目標】

- ① 患者、家族と良好な人間関係を確立させ、指導者とともに全ての医療行為をインフォームドコンセントに基づいて行う
- ② 神経症状を有する患者を問診・診察後、神経学的所見を解釈し、SOAP形式でカルテに記録する。
- ③ 神経症状に応じた神経補助検査を指示し、その結果を理解する。
- ④ 脳血管撮影や脊髄・脳槽造影などの侵襲的検査の基本的な手技の適応を判断し、指導者のもとで実施できる。
- ⑤ 穿頭や開頭などの基本的な手術手技の実施を指導者のもとで実施できる。

【経験すべき症候、疾患】

- ① 症候：意識障害、運動麻痺、知覚障害、頭痛、めまい、けいれん、不随意運動
- ② 疾患：≪脳血管障害≫脳梗塞、脳出血、くも膜下出血
≪神経外傷≫脳挫傷、急性硬膜下血腫、急性硬膜外血腫、慢性硬膜下血腫

《脳腫瘍》良性、悪性（転移性を含む）

《その他》脊椎脊髄疾患、パーキンソン病、てんかん、認知症、顔面けいれん、三叉神経痛

【週間スケジュール】

脳 神 経 外 科						
	8:00	9:00	10:00	13:00	15:00	17:00
月	症例検討会	外来・病棟診察・救急対応			脳血管内手術	
火	脳血管撮影			病棟診察・救急対応	画像診断検討会	
水	外来・病棟診察・救急対応救急対応				手術	
木	症例検討会	外来・病棟業務・救急対応				
金	病棟診察 部長回診			手術		

2012.5.31